

看護師等学校養成所における 専門職連携教育の推進方策に関する研究

**平成29年度厚生労働科学特別研究事業
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
(研究代表者 酒井郁子)**

研究概要

目的

- ◆ 看護師等学校養成所における専門職連携教育（Interprofessional Education：以下IPEとする）を推進するために、基礎教育の実態把握のための調査及び課題の整理をし、日本の看護師等学校養成所において実現可能なIPEの展開方法を手順書案として提示すること

【研究1：実態調査】

- ◆ 全国の看護師等学校養成所を対象に、学校の特徴、IPE実装状況の有無についての実態の質問紙調査
- ◆ 499件回収（回収率38.9%）、475件分析対象
○IPEの実装状況
「実装している」13.5%
「実装していない」86.5%
- ◆ IPEの工夫
○組織運営の工夫
・関係学部すべての教員がかかわる
・病院との連携推進
・地域との連携推進
○科目の工夫
・アクティブラーニングの推進
・シミュレーション教育の推進
・学生が企画するIPEイベント

【研究2：インタビュー調査】

- ◆ IPEに携わった経験のある教員12名を対象に対するIPE実装に関する認識についてのフォーカスグループインタビュー
- ◆ IPEの実装過程を【IPE開始期】【IPE実施評価期】に分け、それぞれ130コード、434コード抽出
- ◆ 両時期において、教員間・領域間・組織間の協議の場の組織化が不可欠
- ◆ 【IPE開始期】
○まず試行的にでも初めてみるのが重要
○試行錯誤の中で教員間の理解や結束も意思決定力も高まる
- ◆ 【IPE実施評価期】
○多職種間の対等な関係構築や互いの理解を深める教育プログラムの重視
○学生の自律的な学習を促す教員の指導力の向上
○隠れたカリキュラムの影響を防ぐためのFaculty Developmentが課題

結果

【研究3：教育展開例の評価】 （短期間研修例）

- ◆ 平成29年度に実施したIPE（専門職連携教育）に参加した看護学生及び医療従事者養成課程（6職種34名）の学習成果の調査
- ◆ 研究者が作成した評価項目21項目を用いて、IPE実施前後に専門職としての態度や認識について学生による自己評価を実施
- ◆ 看護学生のIPE実施前の合計得点が81.7点、実施後が86.8点
看護学生以外は実施前の合計得点が74.8点、実施後が87.0点

【研究4：教育展開例の評価】 （経年蓄積型IPE授業展開例）

- ◆ 亥鼻IPE（step1～step4を4年間で実施）を受講した医学部39名、看護学部39名、薬学部24名の合計102名の自己評価得点の経年比較
- ◆ 自己評価得点の比較
○各stepにおいて、3学部とも最終日に得点が優位に上昇
→短期的な学習効果が認められる
○step4の最終日の得点はすべての時点得点より有意に上昇
→経年蓄積型IPEの効果

【研究5：ヒアリング】

- ◆ 英国・ドイツ・デンマークにおけるIPEの取組みに関するヒアリング
- ◆ 日本の看護師等学校養成所におけるIPE実装を促進するための知見
○関わる人すべてを巻き込みIPEのプランニングを行うこと
○IPEを支える理論的根拠をもとに評価できるようにすること
○カウンターパート校の獲得と関係構築
○初等・中等教育との連携も視野に入れた連動性のある教育を検討

成果

【手順書】日本の看護師等学校養成所において実現可能なIPEの展開方法

- 1) 教員がIPEの知識と情報を得てIPEにコミットする
- 2) IPEに関わる人すべてを巻き込み計画を立てる
- 3) IPEカリキュラムを構築する
- 4) IPEをスタートする
- 5) 信頼されるIPE科目にする

今後の課題

- ◆ 今後はこの手順書に基づき、全国の看護師等学校養成所で展開可能なIPEに必要なカリキュラムマネジメント、科目のデザイン、教員へのファカルティデベロップメントなどの研修計画の立案実施評価を行うことが課題である。
- ◆ IPEは看護師等学校養成所だけで実施することはできないため、他の健康関連専門職の養成校との協働の仕組みを行政レベルで構築することでIPEの実装は飛躍的に進展すると考えられる。

厚生労働省科学研究成果データベース